

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	インターンシップ実習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップ実習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	4	170
使用教材	なし			出版社	なし

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録販売者資格取得にあたり必要な実務経験を積む。</li> <li>・実習を通して、登録販売者に必要な知識や技術を身に着ける。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に働く現場の店長やその他スタッフにとって、一緒に働きたいと求められる働きをする。</li> <li>・販売員としての接客対応スキルを活かし、お客様対応がスムーズに出来る。</li> <li>・一般用医薬品の知識を他者に説明できる。</li> </ul>				
評価基準	企業側評価：80%(事項別評価75点、総合評価5点)、学校側評価(レポート)：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	医薬品登録販売者				
関連科目	就職活動対策Ⅲ・就職活動対策Ⅳ・シミュレーション販売				
備考	原則、現場での実習形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職活動対策Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職活動対策Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	なし			出版社	なし

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録販売者試験に向けて、準備事項を知る。</li> <li>・就職活動の準備や社会人として（現場で）必要なスキル・考え方を習得する。</li> <li>・現場をイメージできる実習への向き合い方を理解する。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録販売者試験を受験するにあたって、手続き方法を述べることができる。</li> <li>・登録販売者試験に合格するために、計画を立てることができる。</li> <li>・社会人として持つべきスキル・考え方を述べることができる。</li> <li>・実習を通じて、自身の課題（今後の取り組み）の発見がある。</li> </ul>				
評価基準	発表点：40％、提出物：30％、授業態度：30％				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	なし				
関連科目	インターンシップ実習Ⅱ・就職活動対策Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業のねらいや目的を確認する。 実習報告書・実務経験実績表の記入・提出方法を再度確認する。
2	就職活動実践①	就職活動状況の確認をする。 就職活動の具体的な計画を立てる。
3	就職活動実践②	就職活動状況の確認をする。 就職活動の具体的な計画を立てる。
4	インターンシップ実習①	実習の目的を再確認する。
5	インターンシップ実習②	1年次の実習の振り返りを行い、今後の課題を発見する。
6	資格取得に向けての準備①	登録販売者試験合格に向けての計画を立てる。
7	資格取得に向けての準備②	登録販売者試験合格に向けての計画を立てる。

8	資格取得に向けての準備③	受験の申し込みについて確認をする。
9	資格取得に向けての準備④	登録販売者試験模試の振り返りを行う。
10	社会人としての心構え①	社会人としての心構え、マナーなどを学ぶ。
11	社会人としての心構え②	社会人としての心構え、マナーなどを学ぶ。
12	社会人としての心構え③	社会人としての心構え、マナーなどを学ぶ。
13	社会人としての心構え④	社会人としての心構え、マナーなどを学ぶ。
14	社会人としての心構え⑤	社会人としての心構え、マナーなどを学ぶ。
15	まとめ	前期の振り返りを行い、就職・実習における目標を設定する。

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職活動対策Ⅳ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職活動対策Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	なし			出版社	なし

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動の準備や社会人として（現場で）必要なスキル・考え方を習得する。</li> <li>・現場をイメージできる実習への向き合い方を理解する。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として持つべきスキル・考え方を述べることができる。</li> <li>・実習を通じて、自身の課題（今後の取り組み）の発見がある。</li> </ul>				
評価基準	発表点：40％、提出物：30％、授業態度：30％				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	なし				
関連科目	インターンシップ実習Ⅱ・就職活動対策Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	－			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション①	残りの学校生活における目標を設定する。
2	オリエンテーション②	勤労学生控除について理解する。
3	インターンシップ実習①	2年次の実習の学びをまとめる。
4	インターンシップ実習②	2年次の実習の学びをまとめる。
5	インターンシップ実習③	2年次の実習の学びを発表する。
6	インターンシップ実習④	2年次の実習の学びを発表する。
7	資格取得に向けて	登録販売者の従事登録について理解する。
8	社会人としての心構え①	社会人としての心構えを学ぶ。
9	社会人としての心構え②	社会人としての心構えを学ぶ。

10	社会人としての心構え③	社会人としての心構えを学ぶ。
11	社会人としての心構え④	社会人としての心構えを学ぶ。
12	社会人としての心構え⑤	社会人としての心構えを学ぶ。
13	社会人としての心構え⑥	社会人としての心構えを学ぶ。
14	社会人としての心構え⑦	社会人としての心構えを学ぶ。
15	まとめ	2年間の振り返りを行う。

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パソコン応用Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	パソコン応用Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	30
使用教材	30時間でマスターWord 30時間でマスターExcel パソコン技能検定 対策問題集 2級			出版社	実教出版 三幸学園

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Word、Excelの基礎を踏まえて、さらにいろいろな機能を応用的に使用できるようになる。</li> <li>・ 社会に出て役立つ資料作成・解決できる力を養う。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見本がなくても一人で、文書作成ができる。</li> <li>・ Word、Excelにおけるさまざまな機能を使って文書・表の作成ができる。</li> </ul>				
評価基準	テスト：60%、課題：30%、授業態度：10%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・ 成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	パソコン技能検定				
関連科目	パソコン基礎Ⅰ・パソコン基礎Ⅱ・パソコン応用Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	操作の確認①	入力練習（10分間）×2 パソコン基礎の内容復習（Wordの2級レベル・図形等）
2	操作の確認②	入力練習（10分間）×2 パソコン基礎の内容復習（Wordの2級レベル・段組み等）
3	操作の確認③	入力練習（10分間）×2 パソコン基礎の内容復習（Excelの2級レベル・ROUND・RANK・IF等）
4	操作の確認④	入力練習（10分間）×2 パソコン基礎の内容復習（Excelの2級レベル・VLOOKUP・HLOOKUP・XLOOKUP・INDEX）
5	操作の確認⑤	入力練習（10分間）×2 パソコン基礎の内容復習（Excelの2級レベル・複合グラフ等）
6	問題実践①	入力練習（10分間） 学科問題の説明・解説 2級問題の実施（45分）・解説
7	問題実践②	入力練習（10分間） 学科問題の説明・解説 2級問題の実施（45分）・解説
8	問題実践③	入力練習（10分間） 学科問題の説明・解説 2級問題の実施（45分）・解説

9	データベース①	入力練習（10分間）×2 並べ替え、検索と抽出等
10	データベース②	入力練習（10分間）×2 テーブル、ピボットテーブルによるデータの集計
11	データベース関数	入力練習（10分間）×2 関数（DSUM・DAVERAGE・DMAX・DMIN・DCOUNT・DCOUNTA）
12	3 D集計といろいろな機能	入力練習（10分間）×2 3 D集計等
13	ExcelとWordの連動 マニュアル作成①	入力練習（10分間）×2 1年時に学んだ差し込み印刷を復習し、操作方法をPrtScrを使いながらマニュアルを作る
14	ExcelとWordの連動 マニュアル作成②	入力練習（10分間）×2 1年時に学んだ差し込み印刷を復習し、操作方法をPrtScrを使いながらマニュアルを作る
15	前期復習・まとめ	入力練習（10分間）×2 前期に行った内容の復習（関数など）

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パソコン応用Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	パソコン応用Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	30
使用教材	30時間でマスターWord 30時間でマスターExcel パソコン技能検定 対策問題集 2級			出版社	実教出版 三幸学園

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Word、Excelの基礎を踏まえて、さらにいろいろな機能を応用的に使用できるようになる。</li> <li>・ 社会に出て役立つ資料作成・解決できる力を養う。</li> <li>・ 一般企業で必要とされるプレゼンテーションに必要なPowerPointの技能を身に付ける。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見本がなくても一人で、文書作成ができる。</li> <li>・ Word、Excelにおけるさまざまな機能を使って文書・表の作成ができる。</li> <li>・ PowerPointの基本的な操作・PowerPointを用いた発表ができる。</li> </ul>				
評価基準	テスト：40%、パワーポイント課題：50%、授業態度：10%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・ 成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	パソコン技能検定				
関連科目	パソコン基礎Ⅰ・パソコン基礎Ⅱ・パソコン応用Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	プレゼンテーションの基本 PowerPointの基本・操作①	入力練習（10分間）×2 プレゼンテーションについて 基本入力、デザイン等
2	PowerPointの基本・操作②	入力練習（10分間）×2 スライドへのオブジェクトの挿入（図形・画像・SmartArt等）
3	PowerPointの基本・操作③	入力練習（10分間）×2 画面切り替え・アニメーション・スライドショー等
4	PowerPoint課題作成①	入力練習（10分間）×2 課題作成
5	PowerPoint課題作成②	入力練習（10分間）×2 課題作成
6	PowerPoint発表	作成した課題を発表させる
7	Excelのいろいろな機能①	入力練習（10分間）×2 関数（COUNTIF・SUMIF・AVERAGEIF等）、表示形式（日付・ユーザー定義等）

8	Excelのいろいろな機能②	入力練習（10分間）×2 関数（LEN・LEFT・RIGHT等）、WordへのExcelの埋め込み
9	Excelのいろいろな機能③	入力練習（10分間）×2 関数（LARGE・SMALL・MID・VALUE等）、データのリンク埋め込み
10	はがき作成・印刷	入力練習（10分間）×2 年賀状の作成・印刷
11	Excelでの文書作成①	入力練習（10分間）×2 写真、表、関数を使用した旅行計画書を作成する
12	Excelでの文書作成②	入力練習（10分間）×2 写真、表、関数を使用した旅行計画書を作成する
13	栄養だより作成①	これまでに学んだ機能を使い、課題の作成 いくつかの薬局の栄養だよりを参考にしながら、情報を1枚に収める方法を学ぶ
14	栄養だより作成②	これまでに学んだ機能を使い、課題の作成 いくつかの薬局の栄養だよりを参考にしながら、情報を1枚に収める方法を学ぶ
15	総復習・まとめ	1年間の総まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	資格試験対策Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	資格試験対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	5	75
使用教材	登録販売者試験 手引き集 登録販売者受験対策 テキスト 登録販売者受験対策講座 練習問題集			出版社	日本薬業研修センター

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者試験の合格を目指すと同時に、信頼される医薬品の専門家となるための知識を習得する。				
到達目標	登録販売者試験の合格基準点「全体の7割以上の得点」を取ることができる。				
評価基準	テスト：50%、単元ごとの確認テスト：30%、提出物・授業態度：20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	医薬品登録販売者				
関連科目	薬理学Ⅰ・薬理学Ⅱ・基礎医薬品Ⅰ・基礎医薬品Ⅱ・解剖生理学Ⅰ・解剖生理学Ⅱ・ 生薬漢方学Ⅰ・生薬漢方学Ⅱ・薬事関係法規・制度Ⅰ・薬事関係法規・制度Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識	医薬品概論、医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因
2	第2章 人体の働きと医薬品	適切な医薬品選択と受診勧奨、薬害の歴史、人体の構造と働き
3	第2章 人体の働きと医薬品	人体の構造と働き
4		人体の構造と働き、薬が働く仕組み
5		薬が働く仕組み、症状からみた主な副作用

6	第4章 薬事関係法規・制度	法律の目的、医薬品の定義と範囲
7		容器・外箱等への記載事項、添付文書等への記載事項,医薬部外品、化粧品、保健機能食品等
8		許可の種類と許可行為の範囲、リスク区分に応じた販売従事者、情報提供及び陳列等
9		適正な販売広告
10		行政庁の監視指導、苦情相談窓口、医薬品の適正使用情報
11	第5章 医薬品の適正使用・安全対策	医薬品の安全対策、医薬品の副作用等による健康被害の救済
12		一般用医薬品に関する主な安全対策,医薬品の適正使用のための啓発活動
13	試験対策①	過去問題演習およびグループワークを通じた振り返り 確認テスト
14	試験対策②	過去問題演習およびグループワークを通じた振り返り
15	試験対策③	過去問題演習およびグループワークを通じた振り返り

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	資格試験対策Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	資格試験対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	5	75
使用教材	登録販売者試験 手引き集 登録販売者受験対策 テキスト 登録販売者受験対策講座 練習問題集			出版社	日本薬業研修センター

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者試験の合格を目指すと同時に、信頼される医薬品の専門家となるための知識を習得する。				
到達目標	登録販売者試験の合格基準点「全体の7割以上の得点」を取ることができる。				
評価基準	テスト：50%、単元ごとの確認テスト：30%、提出物・授業態度：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	医薬品登録販売者				
関連科目	薬理学Ⅰ・薬理学Ⅱ・基礎医薬品Ⅰ・基礎医薬品Ⅱ・解剖生理学Ⅰ・解剖生理学Ⅱ・生薬漢方学Ⅰ・生薬漢方学Ⅱ・薬事関係法規・制度Ⅰ・薬事関係法規・制度Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	第3章 主な医薬品とその作用	精神神経系に作用する薬
2	第3章 主な医薬品とその作用	呼吸器系に作用する薬、胃腸に作用する薬
3	第3章 主な医薬品とその作用	胃腸に作用する薬
4	第3章 主な医薬品とその作用	心臓などの器官や血液に作用する薬
5	第3章 主な医薬品とその作用	排泄に関わる部位に作用する薬、婦人薬
6	第3章 主な医薬品とその作用	内服アレルギー用薬、鼻に用いる薬
7	第3章 主な医薬品とその作用	鼻に用いる薬
8	第3章 主な医薬品とその作用	眼科用薬、皮膚に用いる薬

9	第3章 主な医薬品とその作用	皮膚に用いる薬
10	第3章 主な医薬品とその作用	歯や口内に用いる薬
11	第3章 主な医薬品とその作用	禁煙補助薬、滋養強壮保健薬
12	第3章 主な医薬品とその作用	漢方処方製剤、生薬製剤
13	第3章 主な医薬品とその作用	公衆衛生用薬、一般用検査薬
14	試験対策①	過去問題演習およびグループワークを通じた振り返り テスト
15	試験対策②	過去問題演習およびグループワークを通じた振り返り

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	健康食品・サプリメント知識Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	健康食品・サプリメント知識Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	健康食品の基礎知識			出版社	(株)じほう

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	健康食品やサプリメントの主要な成分について、特徴や留意点を習得する。				
到達目標	ドラッグストアや薬局で販売されている健康食品やサプリメントについての正しい知識を深め、食生活や薬の服用を含め包括的な視点から、購入者への適切なアドバイスができる。				
評価基準	テスト：40％、小テスト：20％、提出物：20％、授業態度：20％				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	医薬品登録販売者				
関連科目	栄養学Ⅰ・栄養学Ⅱ・資格試験対策Ⅰ・資格試験対策Ⅱ・シミュレーション販売				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	－			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章【健康食品概論Ⅰ】 国民の食生活	国民の食生活の現状を知り、国の取り組みについて学習する。
2	第1章【健康食品概論Ⅱ】 健康食品とは	食品の機能から保健機能食品・特別用途食品等を理解する。
3	【サプリメント知識】	サプリメントの基本的な知識を知り、科学的根拠と安全性を理解する。
4	第2章【食品の表示Ⅰ】 食品表示	食品表示から食品の情報を読み取ることが出来るようになる。
5	第2章【食品の表示Ⅱ】 食品表示	アレルギー表示・遺伝子組換え食品の表示を理解する。 習得状況の確認のため、小テストを実施する。
6	第3章【栄養の知識Ⅰ】 6大栄養素の性質と機能	タンパク質、脂質、糖質の構造と種類を理解する。
7	第3章【栄養の知識Ⅱ】 6大栄養素の性質と機能	ビタミン、ミネラルの働きと食物繊維の分類と種類を理解し、サプリメントについて考える。
8	第3章【栄養の知識Ⅰ】 栄養素の消化・吸収	三大栄養素の消化と吸収、ビタミン、ミネラルの吸収を理解する。
9	第3章【栄養の知識Ⅱ】 栄養素の代謝Ⅰ	エネルギー代謝を理解する。

10	第3章【栄養の知識Ⅲ】 栄養素の代謝Ⅱ	三大栄養素の代謝を理解する。 習得状況の確認のため、小テストを実施する。
11	第4章【疾患と栄養Ⅰ】 栄養アセスメント	栄養アセスメントを知り、病気にサプリメントを利用するときの注意点を理解する。
12	第4章【疾患と栄養Ⅱ】 代謝性疾患	代謝性疾患を理解し、サプリメントを考える。
13	第4章【疾患と栄養Ⅲ】 循環器疾患	循環器疾患を理解し、サプリメントを考える。
14	テスト	テストの実施により学習目標の到達を確認する。
15	解説・振り返り	テストの解説および総まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	健康食品・サプリメント知識Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	健康食品・サプリメント知識Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	健康食品の基礎知識			出版社	(株)じほう

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	健康食品やサプリメントの主要な成分について、特徴や留意点を習得する。				
到達目標	ドラッグストアや薬局で販売されている健康食品やサプリメントについての正しい知識を深め、食生活や薬の服用を含め包括的な視点から、購入者への適切なアドバイスができる。				
評価基準	テスト：40％、小テスト：20％、提出物：20％、授業態度：20％				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	医薬品登録販売者				
関連科目	栄養学Ⅰ・栄養学Ⅱ・資格試験対策Ⅰ・資格試験対策Ⅱ・シミュレーション販売				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	第4章【疾患と栄養Ⅳ】 呼吸器疾患	呼吸器疾患を理解し、サプリメントを考える。
2	第4章【疾患と栄養Ⅴ】 肝・胆・膵系疾患	肝・胆・膵系疾患を理解し、サプリメントを考える。
3	第4章【疾患と栄養Ⅵ】 内分泌疾患	内分泌疾患を理解し、サプリメントを考える。
4	第4章【疾患と栄養Ⅶ】 泌尿器疾患	泌尿器疾患を理解し、サプリメントを考える。
5	第4章【疾患と栄養Ⅷ】 血液疾患・悪性腫瘍他	血液疾患・悪性腫瘍・骨疾患・口腔疾患・皮膚疾患を理解し、サプリメントを考える。 習得状況の確認のため、小テストを実施する。
6	第5章【食品と医薬品の相互作用Ⅰ】	薬の吸収と食事の関係性を理解する。
7	第5章【食品と医薬品の相互作用Ⅱ】	実例から薬と食事の関係性を理解する。
8	第6章【食品の安全と衛生Ⅰ】	食品添加物の意義を理解し、食品について考える。
9	第6章【食品の安全と衛生Ⅱ】	食中毒の知識を深め、発生状況を理解する。

10	第7章【関連法規Ⅰ】	健康食品と法律について学ぶ。
11	第7章【関連法規Ⅱ】	健康食品と法律について学ぶ。 習得状況の確認のため、小テストを実施する。
12	【健康食品Ⅰ】	これまでの授業内容からサプリメントの提案を行う。
13	【健康食品Ⅱ】	これまでの授業内容からサプリメントの提案を行う。
14	テスト	テストの実施により学習目標を確認する。
15	【健康食品Ⅲ】	これまでの授業内容からサプリメントの提案を行う。

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	栄養学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	栄養学Ⅰ		
開講			単位数	時間数	
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	栄養の基本がわかる図解事典		出版社	成美堂出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	栄養学的視点から健康について考える力を養う。				
到達目標	栄養素のはたらきを理解し、食生活のアドバイスが出来るようになる。				
評価基準	テスト：70%、レポート：30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	医薬品登録販売者				
関連科目	健康食品・サプリメント知識Ⅰ・健康食品・サプリメント知識Ⅱ・栄養学Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	－		実務経験		
実務内容					
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元		内容		
1	イントロダクション		日本人の健康状態を把握し、それに関連する栄養素の摂取状況を理解する。		
2	栄養学入門Ⅰ		栄養素の種類とはたらき（栄養）の大まかな概要を理解する。		
3	栄養学入門Ⅱ		食事摂取基準の考え方を理解し、食生活指針から献立作成の基礎を学ぶ。		
4	活動と栄養		基礎代謝を理解し、エネルギー量の算出ができる。		
5	年代別栄養Ⅰ		妊娠期に必要な栄養素、乳幼児期の発達に応じた栄養を理解する。		
6	年代別栄養Ⅱ		学童期～高齢者における各ライフステージに必要な栄養を理解する。		
7	栄養素Ⅰ		炭水化物の概要を理解し、過剰時の代謝について学ぶ。		
8	栄養素Ⅱ		脂肪の概要を理解し、脂肪酸の分類やはたらきについて理解を深める。		
9	栄養素Ⅲ		たんぱく質の概要を理解し、たんぱく質の評価指標について理解を深める。		

10	栄養素Ⅳ	脂溶性ビタミンの生体内でのはたらきを理解する。
11	栄養素Ⅴ	水溶性ビタミンの生体内でのはたらきを理解する。
12	栄養素Ⅵ	ミネラルの生体内でのはたらきを理解する。
13	栄養素Ⅶ	食物繊維のはたらきと腸における便の形成を理解する。
14	テスト（前期）	テストを実施する。
15	授業内容確認	前期授業の振り返りを行い、記憶の定着を確認し、授業の学習内容を確認する。

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	栄養学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	栄養学Ⅱ		
開講			単位数	時間数	
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科		1 15
使用教材	栄養の基本がわかる図解事典		出版社	成美堂出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	栄養学的視点から健康について考える力を養う。				
到達目標	栄養素のはたらきを理解し、食生活のアドバイスが出来るようになる。				
評価基準	テスト：70％、レポート：30％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	医薬品登録販売者				
関連科目	健康食品・サプリメント知識Ⅰ・健康食品・サプリメント知識Ⅱ・栄養学Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	－		実務経験		
実務内容					
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	オリエンテーション 代謝Ⅰ	授業の流れ、到達目標について理解する。 食欲と消化のしくみを理解する。			
2	代謝Ⅱ	小腸での栄養素の吸収と糖質の代謝について理解する。			
3	代謝Ⅲ	脂質、タンパク質の代謝について理解する。			
4	症例別栄養Ⅰ	肥満、糖尿病の病態を把握し栄養学的視点から予防対策を考える。			
5	症例別栄養Ⅱ	がん、動脈硬化肥満の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。			
6	症例別栄養Ⅲ	脂質異常症、高血圧の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。			
7	症例別栄養Ⅳ	脳卒中、虚血性心疾患の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。			
8	症例別栄養Ⅴ	肝機能低下、胃、十二指腸潰瘍の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。			
9	症例別栄養Ⅵ	胆石、胆のう炎、腎機能低下の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。			

10	症例別栄養Ⅶ	高尿酸血症、骨粗鬆症の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。
11	症例別栄養Ⅷ	脳血管性認知症、摂食障害の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。
12	症例別栄養Ⅸ	便秘、下痢、風邪の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。
13	症例別栄養Ⅹ	花粉症、眼精疲労、疲労の病態を把握し、栄養学的視点から予防対策を考える。
14	テスト（後期）	テストを実施する。
15	授業内容確認	テストの解説と年間の授業内容について振り返る。

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療品の安全対策と副作用		
必修選択	選択	(学則表記)	医療品の安全対策と副作用		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	登録販売者試験 手引き集 登録販売者受験対策 テキスト 登録販売者受験対策講座 練習問題集			出版社	三幸学園(三幸医療カレッジ)

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	医療品の安全対策や医薬品の副作用（登録販売者試験第5章範囲）について理解する。				
到達目標	登録販売者試験 第5章7割以上取得（20問中14点以上）することができる。				
評価基準	テスト：50%、小テスト：30%、提出物・授業態度：20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	医薬品登録販売者				
関連科目	資格試験対策Ⅰ・資格試験対策Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	医薬品の適正使用情報	添付文書の読み方① 過去問練習・解説
2	医薬品の適正使用情報	添付文書の読み方②、製品表示の読み方 過去問練習・解説
3	医薬品の適正使用情報	安全性情報など、その他の情報、購入者等に対する情報提供への活用 過去問練習・解説
4	医薬品の安全対策	医薬品の副作用情報等の収集、評価及び措置、医薬品による副作用等が疑われる場合の報告の仕方 過去問練習・解説
5	医薬品の副作用等による健康被害の救済	医薬品副作用被害救済制度等への案内、窓口紹介 過去問練習・解説
6	一般用医薬品に関する主な安全対策 医薬品の適正使用のための啓発活動	一般用医薬品に関する主な安全対策、医薬品の適正使用のための啓発活動 過去問練習・解説
7	主な使用上の注意の記載と その対象成分・薬効群	精神神経系に作用する薬① 過去問練習・解説

8	主な使用上の注意の記載と その対象成分・薬効群	精神神経系に作用する薬②、呼吸器系に作用する薬 過去問練習・解説
9	主な使用上の注意の記載と その対象成分・薬効群	胃腸に作用する薬 過去問練習・解説
10	主な使用上の注意の記載と その対象成分・薬効群	循環器や血液に作用する薬・過去問練習・解説 テスト
11	主な使用上の注意の記載と その対象成分・薬効群	排泄に関わる部位に作用する薬、アレルギー用薬、鼻に用いる薬、眼科用薬 過去問練習・解説
12	主な使用上の注意の記載と その対象成分・薬効群	漢方処方製剤・生薬製剤 過去問練習・解説
13	主な使用上の注意の記載と その対象成分・薬効群	皮膚に用いる薬 過去問練習・解説
14	主な使用上の注意の記載と その対象成分・薬効群	歯や口中に用いる薬、禁煙補助剤、滋養強壮保健薬 テスト
15	主な使用上の注意の記載と その対象成分・薬効群	公衆衛生用薬、一般用検査薬 過去問練習・解説

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	公衆衛生学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	公衆衛生学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	公衆衛生学			出版社	同文書院

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者として地域保健活動を展開する上で、基礎となる公衆衛生の理念・考え方・活動について学び、地域保健の構成員であること、登録販売者としてそれに寄与する自覚を持つ。				
到達目標	地域保健を理解し、登録販売者の役割を認識することが出来る。				
評価基準	評価テスト：70%、授業態度：30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	医薬品登録販売者				
関連科目	薬事関連法規・制度Ⅰ・薬事関連法規・制度Ⅱ・資格試験対策Ⅰ・資格試験対策Ⅱ				
備考	原則、この授業は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション	公衆衛生の概念を理解し、その必要性を理解する。
2	第1章 健康と公衆衛生	公衆衛生・予防医学の歴史から健康の概念の変革を学ぶ。
3	第2章 環境と健康Ⅰ	環境汚染が与える健康への影響を知り、環境保全のありかたを理解する。
4	第2章 環境と健康Ⅱ	公害への理解を深め、その対策を理解する。
5	第3章 保健統計Ⅰ	保健統計の基礎資料である人口の把握をおこない、少子高齢化を理解する。
6	第3章 保健統計Ⅱ	人口動態統計から生命表を知り、健康寿命について理解を深める。
7	第3章 保健統計Ⅲ	傷病統計から日本で発生している疾患について理解を深める。
8	第4章 疫学と疾病Ⅰ	疫学の概念を学び、その手法と関連・影響要因を理解する。
9	第4章 疫学と疾病Ⅱ	科学的根拠から実践されるEBMについて、その信頼性の根幹を理解する。

10	第5章 生活習慣と健康Ⅰ	生活習慣病への理解を深め、日本における生活習慣の現状を読み解く。
11	第5章 生活習慣と健康Ⅱ	生活習慣病への理解を深め、日本における生活習慣の現状を読み解く。
12	第6章 主要疾患Ⅰ	がん統計の理解とその影響因子を理解する。
13	第6章 主要疾患Ⅱ	循環器疾患、代謝疾患を公衆衛生的視点から理解を深める。
14	評価テスト	前期の履修内容を客観的に評価するためテストを実施する。
15	第6章 主要疾患Ⅲ	骨・関節疾患、その他の疾患を公衆衛生的視点から理解を深める。

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	公衆衛生学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	公衆衛生学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	公衆衛生学			出版社	同文書院

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者として地域保健活動を展開する上で、基礎となる公衆衛生の理念・考え方・活動について学び、地域保健の構成員であること、登録販売者としてそれに寄与する自覚を持つ。				
到達目標	地域保健を理解し、登録販売者の役割を認識することが出来る。				
評価基準	評価テスト：70%、授業態度：30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	医薬品登録販売者				
関連科目	薬事関連法規・制度Ⅰ・薬事関連法規・制度Ⅱ・資格試験対策Ⅰ・資格試験対策Ⅱ				
備考	原則、この授業は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	第7章 感染症とその予防	感染症への理解を深め、その公衆衛生の遍歴と予防方法を学ぶ。
2	第8章 精神疾患	精神疾患への理解を深め、精神保健福祉対策を学ぶ。
3	第9章 社会保障と行政	社会保障制度への理解を深め、高齢化率との関連を学ぶ。
4	第10章 医療制度	医療保険制度について理解を深め、医療費との関連を学ぶ。
5	第11章 福祉制度	社会福祉制度の関連法規等から社会福祉の基礎的な考え方を学ぶ。
6	第12章 地域保健Ⅰ	地域保健への理解を深め、その活動を理解する。
7	第12章 地域保健Ⅱ	地域保健の基本指針を学ぶ。
8	第13章 母子保健Ⅰ	母子保健のありかたを関連法規から学ぶ。
9	第13章 母子保健Ⅱ	母子保健に関する対策を把握し、少子化について理解を深める。

10	第14章 成人保健	生活習慣病を統計学的に理解し、環境要因を考える。
11	第15章 高齢者保健と介護保険制度	高齢社会の問題を把握し、健康寿命について考える。
12	第16章 産業保健	産業保健の過去から現代への変化を把握し、関連する対策等の理解を深める。
13	第17章 学校保健	教育現場における保健教育、学校保健安全対策について学ぶ。
14	評価テスト	履修内容を客観的に評価するためテストを実施する。
15	第18章 国際保健	国際的な視点から保健問題を捉え、国際間協力について学ぶ。

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	くすりと疾患Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	くすりと疾患Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	総合診療医が教える よくある気になるその症状			出版社	(株)じほう

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	医薬品販売の現場で想定されうるさまざまなケースでの対応の仕方を学び、医薬品販売の即戦力として現場で求められるスキルを身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品販売の現場で特に生活者から質問される「かぜ様症状」、「痛み」、「消化器症状」、「めまいや倦怠感」以上の4つに関して、アドバイスが出来る。</li> <li>・お客様の症状、疾患などの訴えから、お客様に勧める医薬品の選択、受診推奨が出来る。</li> </ul>				
評価基準	小テスト：40%、理解度テスト：40%、授業に対する姿勢：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	医薬品登録販売者				
関連科目	解剖生理学Ⅰ・解剖生理学Ⅱ・薬理学Ⅰ・薬理学Ⅱ・基礎医薬品Ⅰ基礎医薬品Ⅱ・くすりと疾患Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション	登録販売者が疾患について学ぶ意義とは、SOAP形式を用いた患者問診の仕方 など
2	Step1-1 ①典型的かぜ型	かぜの定義、ウイルス感染と細菌感染の違い、典型的かぜ型の定義 など
3	Step1-2 ②鼻症状メイン型	細菌性副鼻腔炎の特徴、SnNoutとSpPin、2峰性による鑑別 など
4	Step1-3 ③喉症状メイン型	嚥下時痛の確認、Centorの基準、細菌性・ウイルス性の判断のコツ、最悪のシナリオとなる3疾患
5	①～③のタイプとOTC	①～③の事例（レッドフラッグサインでない場合）に選択されるOTCとその特徴
6	Step1-4 ④咳症状メイン型①	Diehrの基準、肺炎を強く疑う病歴（悪寒戦慄を伴う発熱と咳、2峰性の有無） など
7	Step1-5 ⑤局所症状不明瞭・高熱のみ型	初期に局所症状が出にくい6つの細菌感染症（尿路感染症、胆道系感染症、血管内感染症、蜂窩織炎、歯髄炎、肛門周囲膿瘍） など
8	Step1-6 ⑥咳症状メイン型②	PICとその典型的な経過、慢性咳嗽とその原因、結核 など

9	④～⑥のタイプとOTC	④～⑥の事例（レッドフラッグサインでない場合）に選択されるOTCとその特徴
10	知っておきたいかぜのQ&A	店頭で聞かれることの多い症例についてOPQRSTチェックシートを使用して実施（咳）
11	知っておきたいかぜのQ&A	店頭で聞かれることの多い症例についてOPQRSTチェックシートを使用して実施（頭痛・めまい）
12	知っておきたいかぜのQ&A	店頭で聞かれることの多い症例についてOPQRSTチェックシートを使用して実施（腰痛・関節痛）
13	知っておきたいかぜのQ&A	店頭で聞かれることの多い症例についてOPQRSTチェックシートを使用して実施（下痢・腹痛）
14	第1回～第13回の総復習	これまでの内容の総復習、理解度テストの実施
15	まとめ	理解度テストの振り返りと解説

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	くすりと疾患Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	くすりと疾患Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	総合診療医が教える よくある気になるその症状			出版社	(株)じほう

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	医薬品販売の現場で想定されうるさまざまなケースでの対応の仕方を学び、医薬品販売の即戦力として現場で求められるスキルを身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品販売の現場で特に生活者から質問される「かぜ様症状」、「痛み」、「消化器症状」、「めまいや倦怠感」以上の4つに関して、アドバイスが出来る。</li> <li>・お客様の症状、疾患などの訴えから、お客様に勧める医薬品の選択、受診推奨が出来る。</li> </ul>				
評価基準	理解度テスト：40%、小テスト：40%、授業に対する姿勢：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	医薬品登録販売者				
関連科目	解剖生理学Ⅰ・解剖生理学Ⅱ・薬理学Ⅰ・薬理学Ⅱ・基礎医薬品Ⅰ基礎医薬品Ⅱ・くすりと疾患Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	Step2-1 ⑦頭痛①	注目すべき3C、症状を聞くコツ「OPQRST」、POUNDing criteria、緊張性頭痛の診断 など
2	Step2-2 ⑧頭痛②	必ず確認する3項目、クモ膜下取穴のための病歴聴取、薬物乱用頭痛が疑われる病歴 など
3	Step2-3 ⑨腰痛	問診における3つの重要な軸、緊急・準緊急の腰痛とそのレッドフラッグサイン など
4	Step2-4 ⑩関節痛	関節痛で注目すべき「OPQRST」、慢性関節痛患者での注意点 など
5	⑦～⑩のタイプとOTC	⑦～⑩の事例（レッドフラッグサインでない場合）に選択されるOTCとその特徴 など
6	Step3-1 ⑪下痢	細菌性胃腸炎を疑う所見、起立試験による脱水の評価、ウイルス性胃腸炎の定義 など
7	Step3-2 ⑫吐き気	吐き気をきたす疾患、ウイルス性胃腸炎の自然経過、腹痛や下痢の有無と程度の確認 など
8	Step3-3 ⑬腹痛	過敏性腸症候群、腹痛の突然の病歴とその背後にある3因子 など

9	⑪～⑬のタイプとOTC	⑪～⑬の事例（レッドフラッグサインでない場合）に選択されるOTCとその特徴
10	Step4-1 ⑭めまい	めまいの原因と分類、注目すべき「OPQRST」 など
11	Step4-2 ⑮倦怠感	倦怠感の分類、うつ病の診断基準 など
12	⑭～⑮のタイプとOTC	⑭～⑮の事例（レッドフラッグサインでない場合）に選択されるOTCとその特徴
13	主なOTC薬の成分	かぜ、痛み、胃のむかつき、下痢などに対して効能・効果をもつ一般用医薬品成分とその特徴
14	第16回～第28回の総復習	これまでの内容の総復習、理解度テストの実施
15	後期のまとめ	理解度テストの振り返りと解説

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	POP&ディスプレイ		
必修選択	選択	(学則表記)	POP & ディスプレイ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	30
使用教材	売上が伸びる手書きPOP POP広告マーカーセット			出版社	かんき出版

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	ドラッグストアや薬局などの現場で働く際に必要な商品陳列に対する考え方や、店のコンセプト演出方法、陳列に対する仕掛けなどディスプレイの知識・技術を身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業制作において、自分たちで商品ディスプレイを考え作成することができる。</li> <li>POP技能審査合格水準に達することができる。</li> </ul>				
評価基準	テスト：50%、制作物：30%、提出物・授業態度：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	POP広告クリエイター技能審査試験・日商販売士3級				
関連科目	ポップアート・店舗マネジメント・研究発表				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章 売上を伸ばすPOPのゴールデンルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>POP&amp;ディスプレイ授業の導入目的と最終目標説明</li> <li>売り場で目にするPOPから読み取るキャッチコピー・売り場に対する基本的な考え方や捉え方</li> </ul>
2	第2章	<ul style="list-style-type: none"> <li>POPは客単価を上げる</li> <li>売上アップの方程式を知る</li> </ul>
3	なぜPOPを付けたと売上が伸びるのか	<ul style="list-style-type: none"> <li>POPの目的と役割、基本要素</li> <li>マグネット効果からの取付位置とディスプレイの仕掛け</li> </ul>
4	第3章	<ul style="list-style-type: none"> <li>マーカーについて・基本ストローク・カタカナ・英数字・レイアウトと余白 (いずれの文字も実際の医薬品名や大売出し/歳末SALE等店内で使う言葉を用いても可)</li> </ul>
5	売れるPOPを書いてみよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジュアルマーチャンダイジングの捉え方と表現方法</li> <li>切抜きPOPと写真の切り貼り活用と売り場や陳列に対する仕掛け</li> </ul>
6	第4章	<ul style="list-style-type: none"> <li>用紙の見やすいレイアウト・アレンジ・売れる一言が見つかる！(巻末のフレーズ集も活用)</li> <li>巻末のフレーズ集をPOP文字にて練習</li> </ul>
7	売れる一言が見つかる！7つの質問	<ul style="list-style-type: none"> <li>巻末フレーズ集の一言を実際の商品(医薬品又は化粧品)にて考え、売り場のどこにどのようにディスプレイの展開をするか</li> <li>巻末のフレーズ集を丸ゴシック文字にて練習</li> </ul>
8	第5章「絵はムリ…という方に朗報！」 絵で売るPOP	<ul style="list-style-type: none"> <li>イラストの人物表情と動き</li> </ul>
9	第6章 POPの世界の色づかい	<ul style="list-style-type: none"> <li>色の効果や季節に合った色使い</li> <li>効果的な台紙の色</li> </ul>

10	第7章 200%活用する POPの付け方・置き方	・お客様の目線に合わせる付け方
11	第8章 お客様の心をつかむ 客層別・書き分け	・10代～シニアまでの年齢別の特徴
12	第9章 まだある！こんなPOP事例	・DS店頭のPOP写真を中心に実例を見せる
13	商品ディスプレイ実習 ③医薬品部門	空箱等を使って商品ディスプレイPOP作成を行う
14	まとめ	まとめ
15	卒業制作	空箱等を使って商品ディスプレイを行う 関連POPも作成し、販売強化につながる作品を作る

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	シミュレーション販売		
必修選択	選択	(学則表記)	シミュレーション販売		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	30
使用教材	なし			出版社	なし

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	医薬品販売の現場で求められる接客コミュニケーションを実践できるスキルを向上させるとともに、商品提案等ができるプレゼンテーション能力を身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>商品の特徴を理解し、現場で求められる説明ができる。</li> <li>個人作業を通じて、自分の考えを文章にまとめ、他の人へわかりやすく伝えることができる。</li> <li>インターンシップ実習の経験から接客販売のロールプレイングを実演することで問題解決力とプレゼンテーション能力を身につけることができる。</li> </ul>				
評価基準	グループワークへの取り組み：40%、個人作業における取り組み：40%、その他：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	なし				
関連科目	資格試験対策ⅠⅡ、健康食品・サプリメント知識ⅠⅡ、医療品の安全対策と副作用、公衆衛生学ⅠⅡ、基礎医薬品ⅠⅡ、生薬・漢方学ⅠⅡ、POP&ディスプレイ、調剤薬局演習、ビューティーケアⅠⅡ、くすりと疾患ⅠⅡ				
備考	原則、この授業は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	登録販売者としての接客 ホスピタリティについて	セルフメディケーションとはなにか、また登録販売者ができるホスピタリティについて
2	これから求められる セルフメディケーションとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の作品も参考にし、個人が考えるセルフメディケーションを考え、論文のテーマを決める</li> <li>論文の書き方や字数制限について</li> </ul>
3	登録販売者に求められる接客とは	登録販売者に求められる接客のスキルについて
4	市場調査について 論文準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のお客さまからどのような相談が多いかを調査</li> <li>インターンシップ実習で経験した接客について振り返り・共有</li> </ul>
5		
6		
7	接客のポイント、準備	グループに分かれて場面に応じた臨機応変な対応についてケーススタディを行う

8	論文作成	個人のテーマを設定し、論文を作成する
9	ケーススタディの発表 論文作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに分かれてシミュレーション実践</li> <li>・個人論文作成（PPT作成含む）</li> </ul>
10		
11	まとめ	中間発表（研究発表）
12	ケーススタディ 中間発表振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに分かれてケーススタディの振り返り</li> <li>・中間発表の振り返りを行う</li> </ul>
13	接客シミュレーション大会準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに分かれてシミュレーション実践</li> <li>・個人論文発表練習・研究発表準備</li> </ul>
14	接客シミュレーション大会準備 論文作成、まとめ	接客シミュレーション・セルフメディケーションアワード発表
15	振り返りとまとめ	1年の総まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	トータルビューティーⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	トータルビューティーⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	日本化粧品検定 2級対策テキスト コスメの教科書 日本化粧品検定 2級対策問題集 日本化粧品検定 1級対策テキスト コスメの教科書			出版社	主婦の友社

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドラッグストアで取り扱う化粧品等を説明、販売するための知識や技術を身に付ける。</li> <li>・日本化粧品検定2、1級の任意受験に対応する知識を身に付ける。</li> <li>・登録販売者試験と重複する範囲もあるため、既修得知識と総合して美容の観点から当該試験内容を理解する。</li> </ul>				
到達目標	化粧品の種類、成分、使用方法や皮膚のメカニズムを理解し、他人に説明できる。				
評価基準	小テスト：60%、授業態度・グループワーク参加態度：20%、問題集実施：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	ナチュラルビューティスタイリスト検定、日本化粧品検定 3級				
関連科目	ビューティーケア、ヘルス&ビューティー、トータルビューティーⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 2級検定希望者は、協会が定める5月・11月開催日程・場所で受験可能(有料)。 1級検定希望者は、協会が定める11月開催日程・場所で受験可能(有料)。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション PART 3 メイクアップの基本テクニック	自己紹介 授業・評価のルール 4.メイクアップの手順～ベースメイク～アイメイク(P94～101) チーク～リップ (P102・103)
2	PART 3 メイクアップの基本テクニック PART 4 美肌・美ボディ生活を送るには	4.肌悩みに応じた化粧品の使い方(P104～108) 1.肌を劣化させるさまざまな要因(P112～P119) 4.美しい肌をつくる生活習慣(P132～139)
3	2級対策問題集	●対策問題集
4	2級対策問題集 ①小テスト実施	●対策問題集 小テスト実施(評価素点になりうるものを実施)
5	1級対策テキスト PART 1.化粧品の歴史	化粧品の歴史(P22～28) ●1級対策問題集 1.化粧品の歴史(問 1～8) 1.化粧品の原料について 界面活性剤(P32～33)
6	PART 2.化粧品原料と基礎知識	1.化粧品の原料について 界面活性剤(P32～35) ●1級対策問題集 1.化粧品の原料について(1～15問)

7	PART 2.化粧品原料と基礎知識 ②小テスト実施	1.化粧品の原料について 増粘剤～着色剤(P35～38) ●1級対策問題集 1.化粧品の原料について(16～21問)
8	PART 2.化粧品原料と基礎知識	2.スキンケア化粧品 おもな成分構成～クレンジング(P40～43) ●1級対策問題集 2.スキンケア化粧品(1～8問)
9	PART 2.化粧品原料と基礎知識	2.スキンケア化粧品 洗顔～せっけん(P44～47) ●1級対策問題集 2.スキンケア化粧品(9～12問)
10	PART 2.化粧品原料と基礎知識 ③小テスト実施	2.スキンケア化粧品 化粧水 乳液 クリーム 美容液 スペシャルケア(P48～55) 3.男性肌の特徴(P56・57) ●1級対策問題集 2.スキンケア化粧品(13～20問) 3.男性肌の特徴(1～7問)
11	PART 2.化粧品原料と基礎知識	17.サプリメントの基礎知識(P139～145) ●1級対策問題集 17.サプリメントの基礎知識(1～7問) ●登録販売者試験テキスト・過去問題集
12	PART 3.化粧品にまつわるルール	1.化粧品と医薬品医療機器等法(P148・149) 2.化粧品・薬用化粧品・医薬部外品の効能と効果(P150～153) 3.化粧品の広告やPRのためのルール(P154・155)
13	PART 2.化粧品原料と基礎知識	9.ボディ化粧品について(P87～94) 16.口腔と歯の構造(P134～137) ●1級対策問題集 9.ボディ化粧品について(1～15問) 16.口腔と歯の構造(1～12問)
14	PART 2.化粧品原料と基礎知識	10.毛髪と頭皮の構造と機能(P96～106) ●1級対策問題集 10.毛髪と頭皮の構造と機能(1～13問)
15	PART 3.化粧品にまつわるルール	4.化粧品の全成分表示(P156・157) 5.化粧品の安全性を守るためのルール(158～161) 6.化粧品の安全に保つために(162・163) 7.化粧品と肌トラブル(P164～168) 8.化粧品の官能評価(P170～177)

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	トータルビューティーⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	トータルビューティーⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	3	45
使用教材	日本化粧品検定 2級対策テキスト コスメの教科書 日本化粧品検定 2級対策問題集 日本化粧品検定 1級対策テキスト コスメの教科書			出版社	主婦の友社

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドラッグストアで取り扱う化粧品等を説明、販売するための知識や技術を身に付ける。</li> <li>・日本化粧品検定2、1級の任意受験に対応できる知識を身に付ける。</li> <li>・検定終了後はより実践的に施術をしながら、接客販売で利用できる知識技術として修得する。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化粧品の種類、成分、使用方法や皮膚のメカニズムを理解し、他人に説明できる。</li> <li>・現場レベルで活かせる美容皮膚科学・化粧品成分・メイクアップ・生活習慣・美容に関する知識にプラスして、ネイル、香りまで幅広く理解している。</li> <li>・化粧品にまつわるルールなど専門的な知識を活用できる。</li> </ul>				
評価基準	理解度テスト：60%、授業態度・グループワーク参加態度：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	ナチュラルビューティスタイリスト検定、日本化粧品検定 2・3級				
関連科目	ビューティーケア、ヘルス&ビューティー、トータルビューティーⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 1・2級検定希望者は、協会が定める11月開催日程・場所で受験可能(有料)。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	PART2.化粧品原料と基礎知識	4.メイクアップ化粧品の基本となる原料 (P60～72) 5.UVケア化粧品(P62～65) 6.ベースメイクアップ化粧品(P66～72) ●1級対策問題集 4.メイクアップ化粧品の基本となる原料(1～5問) 5.UVケア化粧品(1～7問) 6.ベースメイクアップ化粧品(1～7問)
2	PART2.化粧品原料と基礎知識	7.ポイントメイクアップ化粧品(P74～85) ●対策問題集 7.ポイントメイクアップ(1～6問) 8.アイメイクアップ化粧品(1～8問)
3	PART2.化粧品原料と基礎知識	13.爪の構造と機能(P109～116) 14.ネイル化粧品とお手入れ方法(P113～116) ●対策問題集 13.爪の構造と機能(1～9問) 14.ネイル化粧品とお手入れ方法(1～8問)
4	PART2.化粧品原料と基礎知識	15.嗅覚のしおくみと香りの種類(P118～131) ●対策問題集 15.嗅覚のしおくみと香りの種類(1～31問) ・小テスト実施(評価素点になりうるものを実施)
5	小テスト 検定対策	後期範囲小テスト 検定対策 (2・1級テキストや2・1級検定問題集を使って受験対策を行う)
6	検定対策	検定対策 (2・1級テキストや2・1級検定問題集を使って受験対策を行う)
7	検定対策	検定対策 (2・1級テキストや2・1級検定問題集を使って受験対策を行う)

8	検定対策	検定対策（2・1級テキストや2・1級検定問題集を使って受験対策を行う）
9	日本化粧品検定 2級3級対策テキスト PART3 肌の手入れと正しい知識	3.メイクアップの基本テクニック(P94～97、P104～107) ●自分の顔にベースメイクアップ
10	日本化粧品検定 2級3級対策テキスト PART3 肌の手入れと正しい知識	3.メイクアップの基本テクニック(P94～97、P104～107) ●自分の顔にベースメイクアップ
11	日本化粧品検定 2級3級対策テキスト PART3 肌の手入れと正しい知識	3.メイクアップの基本テクニック(P98～103) ●自分の顔にベースメイクアップ
12	日本化粧品検定 2級3級対策テキスト PART3 肌の手入れと正しい知識	3.メイクアップの基本テクニック(P98～103) ●自分の顔にベースメイクアップ ・小テスト
13	日本化粧品検定 1級対策テキスト PART2 ネイルの構造について	14.ネイル化粧品とお手入れ方法(P113～116) ●自分のネイルにケア&アート
14	日本化粧品検定 1級対策テキスト PART2 ネイルの構造について	14.ネイル化粧品とお手入れ方法(P113～116) ●自分のネイルにケア&アート
15	テーマ演習	グループごとにテーマを決めて、1名モデルにヘアメイク等実施 テーマや施術内容をプレゼン

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ヘルス & ビューティー		
必修選択	選択	(学則表記)	ヘルス & ビューティー		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	30
使用教材	ナチュラルビューティスタイリスト検定公式テキスト		出版社	主婦の友社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	・ドラッグストアで取り扱いのある商品プロダクトを理解する。 ・ナチュラル・オーガニック・ハーブなどをキーワードに健康的に生活することとは何かを実体験する。		
到達目標	・ナチュラルビューティーの概念を理解し、心と身体のしくみ、ストレス解消法などを述べることができる。 ・スキンケア、ヘアケア、ボディケアの方法や種類・特徴を説明できる。 ・アロマ・ハーブの理解とケア用品を活用できる。		
評価基準	理解度テスト：50%、授業態度・グループワーク参加態度：40%、宿題：10%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	ナチュラルビューティスタイリスト検定、日本化粧品検定 3級・2級		
関連科目	ビューティーケアⅠ、ビューティーケアⅡ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	—	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	ナチュラルビューティに生きる 植物の力の秘密	自己紹介、ナチュラルビューティとは 植物の力(P9～10)、植物の力(P71)、アロマの効用・アロマ製品を知る(P58～59) ルームスプレー作成
2	自分のココロとカラダを知る CHAPTER1 カラダのしくみを知る	自分のココロとカラダを知る(P11～14)、ストレスとカラダの関係(P15～18) ・ストレスとは？・ストレスをはね返す調整機能、ホメオスタシス・自律神経の働きと役割
3	CHAPTER1 カラダのしくみを知る CHAPTER2 カラダの内側から整える	内分泌系の働きと役割・免疫系の働きと役割・調整機能が乱れると？(P18～22) カラダをつくる食事(P24～26)
4	CHAPTER2 カラダの内側から整える	和食を見直す・春夏秋冬(P27～29)、旬の食材LIST・植物図鑑(P95～121)、腸を整えよう(P30) ●今週のやって！TRY宿題「和食 旬の素材で一汁三菜チャレンジ」報告会 カラダを温めよう！(P31)、腸活と温活(P32)、植物図鑑(P95～121)、
5		食事とエイジングケア・「酸化と糖化」・「抗酸化力」を高める(P34～36)、植物図鑑(P95～121) ●今週のやって！TRY宿題「腸活と温活一週間チャレンジ」報告会
6		食事とエイジングケア(P34～36)、植物図鑑(P95～121) 実践課題 テーマを決めて効果的な食生活を実践
7	CHAPTER2 カラダの内側から整える CHAPTER2 カラダを休める睡眠	●今週のやって！TRY宿題「テーマを決めて効果的な食生活を実践」報告会 睡眠の役割・睡眠のメカニズム(P44～45)、質のよい睡眠の条件(P46～47)
8	CHAPTER2 カラダを巡らせる運動	●今週のやって！TRY宿題「質のよい睡眠週間チャレンジ」報告会 カラダを動かすことのメリット・カラダの循環を知る(P48～49)、ストレッチ・トレーニング(P50～55)

9	CHAPTER2 ココロの疲れをリセット	●今週のやって！TRY宿題「ストレッチ・トレーニング週間チャレンジ」 ココロの疲れとは・アロマテラピー(P56～57)、スキンケアのための植物(P72～75)、スキンケアのための植物(P72～75) ●今週のやって！TRY「オリジナルアロマソープをつくってみよう！」
10	CHAPTER2 ココロの疲れをリセット	ハーブティー(P60～61)
11	小テスト CHAPTER3 カラダの外側から整える	★理解度テスト 正しい呼吸法(P89～91)、正しいスキンケアで美肌をつくる(P64～68)、正しいスキンケアで美肌をつくる(P64～68)
12	CHAPTER3 カラダの外側から整える	美しいカラダを保つためのボディケア(P70～71・P70～71・P64～68 )
13	CHAPTER3 カラダの外側から整える	ナチュラルコスメを使ってみよう(P76～77) 手作りコスメにチャレンジ(P82～85)
14	CHAPTER3 カラダの外側から整える	★理解度テスト ヘアケアで美しい髪(P78～81)
15	まとめ	人を癒す(香りの効果・触れる効果 手当ての意味・笑顔の効能)

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療用医薬品Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	医療用医薬品Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	分野別公式テキストC分野 薬学検定過去問集1級＋2級			出版社	一ツ橋書店

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	薬を自分の力で選び出すといった「セルフケア」「セルフメディケーション」のケースで必要となる登録販売者の知識に加え、薬局で処方される医薬品や健康食品、検査値の意味まで幅広い知識を身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様の訴えに対する病的背景を医学、薬学的に正しく理解し、適切なカウンセリングをおこなうことができる。</li> <li>基本的な処方薬とその薬理作用を知り、一般用医薬品との併用可否を判断することができる。</li> </ul>				
評価基準	定期テスト：40％、小テスト・課題等：40％、授業への参加態度・意欲等：20％				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	医薬品登録販売者、薬学検定2級、3級				
関連科目	資格試験対策Ⅰ、資格試験対策Ⅱ、薬理学、解剖生理学、くすりと疾患、栄養学、基礎医薬品、医療用医薬品Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	－			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	A分野（一般用医薬品）	薬学検定とは？登録販売者試験との違いと共通点 大衆薬、OTC薬、生活改善薬の基本問題や、有効とされる成分の右記事項に関する問題。⑤かぜ薬(総合感冒薬)
2	A分野（一般用医薬品）	大衆薬、OTC薬、生活改善薬の基本問題や、有効とされる成分の下記事項に関する問題。 ①解熱鎮痛薬 ②鎮咳去痰薬
3	A分野（一般用医薬品）	大衆薬、OTC薬、生活改善薬の基本問題や、有効とされる成分の下記事項に関する問題 ③口腔咽喉薬・咳嗽薬 ⑧乗り物酔い止め薬
4	A分野（一般用医薬品）	大衆薬、OTC薬、生活改善薬の基本問題や、有効とされる成分の下記事項に関する問題 ⑥胃腸薬 ⑩腸の薬
5	A分野（一般用医薬品）	大衆薬、OTC薬、生活改善薬の基本問題や、有効とされる成分の下記事項に関する問題 ⑬強心薬 A分野 これまでの学習内容の振り返り(定期テスト)
6	A分野（一般用医薬品）	大衆薬、OTC薬、生活改善薬の基本問題や、有効とされる成分の下記事項に関する問題 ⑭高コレステロール改善薬 ⑮貧血用薬
7	A分野（一般用医薬品）	大衆薬、OTC薬、生活改善薬の基本問題や、有効とされる成分の下記事項に関する問題 ⑪痔の薬 ⑯婦人薬
8	A分野（一般用医薬品）	大衆薬、OTC薬、生活改善薬の基本問題や、有効とされる成分の下記事項に関する問題 ④鼻炎用薬（内服薬・外用） ⑦目薬
9	A分野（一般用医薬品）	大衆薬、OTC薬、生活改善薬の基本問題や、有効とされる成分の下記事項に関する問題 ⑨皮膚に用いる外用薬 ⑫歯の薬
10	A分野（一般用医薬品）	サプリメントや保健機能食品（特定保健用食品・栄養機能食品）の基本問題、有効とされる成分の下記事項に関する問題。 ☆作用・効果☆副作用☆使用上の注意（服薬指導）①ビタミン②ミネラル③糖質（炭水化物）④脂質⑤タンパク質

11	A分野（一般用医薬品）	A分野 これまでの学習内容の振り返り(定期テスト)
12	B分野（専門用語）	疾患、特に生活習慣病の概略・予防・改善のための家庭医学的な問題など、薬学と関係する周辺分野の問題。
13	B分野（専門用語）	疾患、特に生活習慣病の概略・予防・改善のための家庭医学的な問題など、薬学と関係する周辺分野の問題。
14	C分野（家庭医学問題）	病院・診療所など実際の医療現場で使用する医療用医薬品において有効とされる成分の下記事項に関する問題。 ☆ 作用・効果（効能）
15	C分野（家庭医学問題）	病院・診療所など実際の医療現場で使用する医療用医薬品において有効とされる成分の下記事項に関する問題。 ☆ 作用・効果（効能）

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療用医薬品Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	医療用医薬品Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	2	30
使用教材	分野別公式テキストC・D分野 薬学検定過去問集 1級・2級			出版社	一ツ橋書店

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	薬を自分の力で選び出すといった「セルフケア」「セルフメディケーション」のケースで必要となる登録販売者の知識に加え、薬局で処方される医薬品や健康食品、検査値の意味まで幅広い知識を身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様の訴えに対する病的背景を医学、薬学的に正しく理解し、適切なカウンセリングをおこなうことができる。</li> <li>基本的な処方箋とその薬理作用を知り、一般用医薬品との併用可否を判断することができる。</li> </ul>				
評価基準	定期テスト：40%、小テスト・課題等：40%、授業への参加態度・意欲等：20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	医薬品登録販売者、薬学検定2級・3級				
関連科目	資格試験対策Ⅰ、資格試験対策Ⅱ、薬理学、解剖生理学、くすりと疾患、栄養学、基礎医薬品、医療用医薬品Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	医療用医薬品 (薬学検定D分野)	1章 中枢神経系に作用する薬
2	医療用医薬品 (薬学検定D分野)	2章 末梢神経系に作用する薬、3章 抗炎症薬、4章 抗アレルギー薬
3	医療用医薬品 (薬学検定D分野)	5章 心臓血管系に作用する薬、6章 呼吸器系に作用する薬、7章 消化器系に作用する薬
4	医療用医薬品 (薬学検定D分野)	8章 泌尿器系に作用する薬、9章 血液・造血器系に作用する薬、10章 眼に作用する薬
5	医療用医薬品 (薬学検定D分野)	11章 口腔に作用する薬、12章 耳鼻咽喉に作用する薬、13章 ホルモンとホルモン療法薬
6	医療用医薬品 (薬学検定D分野)	14章 糖尿病治療薬、15章 高脂血症治療薬、16章 痛風・高尿酸血症治療薬
7	医療用医薬品 (薬学検定D分野)	17章 病原生物に作用する薬、18章 抗悪性腫瘍薬（抗がん薬）、19章 漢方薬
8	医療用医薬品 (薬学検定D分野)	医療用医薬品に関するこれまでの振り返りとまとめ
9	医療用医薬品 (薬学検定D分野)	D分野 これまでの学習内容の振り返り(定期テスト)
10	処方箋ケーススタディ	医療用医薬品Ⅰ・Ⅱで学習した内容を基に、さまざまな処方箋を見て、処方医の意図、患者に推測される病名、服薬指導時に注意すべきこと等について考える。

11	処方箋ケーススタディ	医療用医薬品Ⅰ・Ⅱで学習した内容を基に、さまざまな処方箋を見て、処方医の意図、患者に推測される病名、服薬指導時に注意すべきこと等について考える。
12	処方箋ケーススタディ	医療用医薬品Ⅰ・Ⅱで学習した内容を基に、さまざまな処方箋を見て、処方医の意図、患者に推測される病名、服薬指導時に注意すべきこと等について考える。
13	処方箋ケーススタディ	医療用医薬品Ⅰ・Ⅱで学習した内容を基に、さまざまな処方箋を見て、処方医の意図、患者に推測される病名、服薬指導時に注意すべきこと等について考える。
14	まとめ	医療用医薬品 これまでの学習内容の振り返り(期末テスト)
15	これまでの総復習・振り返り	学んだ地域を社会人としてどう活かしていくべきかを考える。

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	調剤薬局演習		
必修選択	選択	(学則表記)	調剤薬局演習		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科		1 30
使用教材	保険調剤Q & A 令和 6 年版 調剤報酬点数のポイント			出版社	(株)じほう

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	調剤薬局での業務に求められる知識および技能を習得する。				
到達目標	・ 調剤薬局の業務を述べることができる。 ・ 薬剤師以外のスタッフが行える業務を理解し、率先して実行することができる。				
評価基準	到達度テスト：50%、小テストおよび課題：20%、実技テスト：30%				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	医薬品登録販売者、調剤事務				
関連科目	薬事関係法規、制度Ⅰ、薬事関係法規、制度Ⅱ、調剤薬局事務Ⅰ、調剤薬局事務Ⅱ、調剤薬局概論Ⅰ、調剤薬局概論Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	－			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション、調剤基本料 レセプトコンピュータの使い方、	授業の進め方について 調剤基本料の改定後変更点、加算、分割調剤について
2	第1章 調剤技術料/調剤基本料	地域支援体制加算、在宅薬学総合体制加算、分割調剤について 次回からのレセプトコンピュータの使い方について
3	第1章 調剤技術料/薬剤調製料	内服薬、内服用適剤、屯服薬、注射薬、外用薬について (受付業務を想定し、調剤用レセプトコンピュータの操作を中心とした授業)
4	第1章 調剤技術料/薬剤調製料	麻薬・毒薬、自家製剤加算、計量混合加算について (受付業務を想定し、調剤用レセプトコンピュータの操作を中心とした授業)
5	第1章 調剤技術料/薬剤調製料	時間外・夜休加算、長期投与について (受付業務を想定し、調剤用レセプトコンピュータの操作を中心とした授業)
6	第1章の振り返り これまでの振り返りとまとめ	第1回～第5回までの内容の振り返り、小テストによる到達度の確認
7	第2章 薬学管理料 調剤管理料～かかりつけ薬剤師指導料	調剤管理料、服薬管理料、かかりつけ薬剤師指導料などについて (受付業務を想定し、調剤用レセプトコンピュータの操作を中心とした授業)
8	第2章 薬学管理料 外来服薬支援料、服用薬剤調整支援料	外来服薬支援料、服用薬剤調整支援料について (受付業務を想定し、調剤用レセプトコンピュータの操作を中心とした授業)
9	第2章 薬学管理料 服薬情報等提供料～退院時共同指導料	服薬情報等提供料、在宅患者訪問薬剤管理指導料、退院時共同指導料について (受付業務を想定し、調剤用レセプトコンピュータの操作を中心とした授業)
10	第3章 薬剤料 第4章 その他の関連項目	薬剤料について 薬担、自己負担金、領収書・明細書について

11	第4章 その他の関連項目	評価療養、麻薬、後発医薬品への変更調剤、その他について
12	これまでの振り返りとまとめ 処方せん演習	第7～11回振り返りや理解度テストを実施し理解度を確認。模擬処方せんを通じて、患者来店・処方せん応需から投薬、お会計、退店の流れを理解し、業務を遂行する能力を修得する。
13	処方せん演習	模擬処方せんを通じて、患者来店・処方せん応需から投薬、お会計、退店にいたるまでの一連の流れを理解し、自らの業務範囲でできることを遂行する能力を修得する。様々な加算について正確に理解し、準備できるようにする。
14	処方せん演習 実技テスト	第12回、第13回で学んだ内容に関する実技テストの実施
15	処方せん演習の振り返り これまでの総まとめ	第12回～第14回の内容の振り返り 調剤薬局業務に関わる者に必要な知識、技能についての総まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	こどもと薬		
必修選択	選択	(学則表記)	こどもと薬		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	はじめてママ&パパの0～6才病気とホームケア			出版社	主婦の友社

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	小児に起きる疾患やその特徴・対処方法を学び、こどもの健康に関する知識を身につける。				
到達目標	小児の健康について理解し、ドラッグストアなどの現場で相談に応じることができる知識を習得する。				
評価基準	テスト：40%、小テスト：30%、AL・提出物など：30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	医薬品登録販売者、チャイルドボディセラピスト				
関連科目	薬理学、基礎医薬品学、解剖生理学、くすりと疾患				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション PART 1 ホームケアと薬Ⅰ	熱があるとき、せき・鼻水が出ているとき、吐いたとき、下痢のとき、 肌トラブルがあるとき、目やに・耳だれが出ているとき
2	PART 1 ホームケアと薬Ⅱ	薬の正しい飲ませ方・使い方
3	PART 2 0～6才かかりやすい病気Ⅰ	子ども時代にかかりやすい5大トラブル
4	PART 2 0～6才かかりやすい病気Ⅱ	目で見る病気図鑑、うつる病気
5	PART 2 0～6才かかりやすい病気Ⅲ	注意したい病気、目の病気、耳・鼻・口の病気
6	PART 2 0～6才かかりやすい病気Ⅳ	腹部・性器・お尻回りの病気
7	PART 2 0～6才かかりやすい病気Ⅴ	骨・筋肉・関節の病気、心臓・腎臓の病気
8	PART 2 0～6才かかりやすい病気Ⅵ	小児がん、アレルギーの病気、肌のトラブル
9	理解度テスト	理解度テスト

10	PART 3 心と体Ⅰ	気になるトピックスⅠ
11	PART 3 心と体Ⅱ	気になるトピックスⅡ
12	PART 4 予防接種と定期健診Ⅰ	予防接種
13	PART 4 予防接種と定期健診Ⅱ PART 5 事故予防と救急ケア	定期健診、事故予防と救急ケア
14	理解度テスト	理解度テスト
15	総まとめ	テストの振り返り・総まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	接遇外国語		
必修選択	選択	(学則表記)	接遇外国語		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	くすりアドバイザー科	1	15
使用教材	『薬局・ドラッグストアのためのらくらくコミュニケーションBOOK』じほう、2020年			出版社	じほう

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	登録販売者が受付で外国人のお客様とコミュニケーションを図るために必要な実用的英語表現を身に付ける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な英単語や慣用表現を理解し、実際に使うことができる。</li> <li>・ 店舗で登録販売者として外国人のお客様に対して英語で適切に対応できる。</li> </ul>				
評価基準	課題の提出：60％　小テスト：20％　レポート：20％				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席（課題の提出）が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・ 成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目はオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。				
担当教員	—			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	本授業の受講の仕方と到達目標・評価方法について
2	基本の挨拶フレーズ・単語	基本的な挨拶、単語のフレーズについて
3	体の名称・内部の名称	体の名称・内部の名称について
4	調剤薬局での受付	受付時の対応・よく使用するフレーズについて
5		
6	患者さまに聞いてみる 症状を聞いてみよう	患者さまへのカウンセリングについて
7		
8	ここまでの流れの確認	受付から患者さまへのヒアリングまでの一連の流れを確認する

9	薬の紹介	症状に合わせた薬について
10		
11	薬についての説明・使い方・副作用について	薬の形状、服用時間、副作用、クロージングについて
12		
13	ドラッグストアでの対応	ドラッグストアでの流れについて学ぶ 商品や接客時のフレーズを含め、一連の流れを学ぶ
14		
15	まとめ	今までの総まとめ